

My Classroom Practices

英語授業実践記録

Vol. 2



P.2-5

ELEMENT English Communication I
音声指導を生かした統合的な
授業展開を目指して

■和歌山県立向陽中・高等学校 海野 真帆

P.6-9

ELEMENT English Communication I
地区拠点校における取り組み
～生徒が「使える英語」を実感するための指導と評価方法～

■岐阜県立郡上高等学校 若狭 幹大

P.10-14

LANDMARK English Communication I
LANDMARK・Vision Quest・Word Navi
をつなげる三位一体の学習法

■北海道帯広三条高等学校 香川 喜義

P.15-17

Vision Quest English Expression I Advanced
ペアワークやプレゼンテーションを
取り入れた英語表現の授業

■愛知県立高蔵寺高等学校 堀場 雅博

P.18-20

Vision Quest English Expression I Standard
コミュニケーション英語でのVision Quest
English Expression I Standardの活用方法

■霞ヶ浦高等学校 大澤 直樹

P.21-23

Vision Quest English Expression II
Vision Quest を利用したディスカッション・
ライティング指導実践例

■関西学院高等部 枝川 豊

KEIRINKAN



音声指導を生かした統合的な授業展開を目指して

和歌山県立向陽中・高等学校 海野 真帆

使用教科書: ELEMENT English Communication I
 単位数: 4単位(70分×3時間)
 使用副教材: 音声CD, CD-ROM
 使用機器: CDプレーヤー

はじめに

訳読授業からの脱却を目指す一方で、文法不要論や、母語を介さない外国語学習といった一元的な視点にとられず、言語の実用性と学問性を統合的に扱う授業形態を目指してきた。そこで、文法解釈から逐語的英文和訳へと導く従来の訳読式を逆にし、音声指導を生かしつつ、英文・和文対比から文法機能や文構造を推測、習得する直解式へとシフトを図り、試行錯誤を重ねた。結果、和訳は授業の目的ではなく、外国語表現を概念的に理解するための補助的要素となり、また各時限での言語活動等で達成すべき目標の明確化、具体化へとつながった。

使用教材

Teacher's Manual付属のCD-ROMを利用して、以下の4種類の授業用教材をパートごとに作成する。

語彙プリントA: 新出英単語・イディオム、そのほか重要英単語と、それぞれのParts of speech, Japanese definition, English definitionを記した語彙リスト。

L3	English words	Parts of speech	Japanese definition	English definition
Part 1	1 tend to do		～する傾向がある。～しがちである	定期的・一定のふるまう 特定の regularly behave in a particular way or have a certain characteristic
	2 whole	adj	全体の	all of; total
	3 Westerner	n	西洋人	居住者 主に a native or inhabitant of the west, especially of western Europe or North America.
	4 generally	adv	一般に、概して	考慮して 概して considering or relating to the whole of a thing or group, rather than to details or specific cases or parts

語彙プリントB: 上記語彙プリントAの英単語・イディオムとJapanese definitionをすべて空欄にしたもの。

L3	English words	Parts of speech	Japanese definition	English definition
Part 1	1			定期的・一定のふるまう 特定の regularly behave in a particular way or have a certain characteristic
	2	adj		all of; total
	3	n		居住者 主に a native or inhabitant of the west, especially of western Europe or North America.
	4	adv		考慮して 概して considering or relating to the whole of a thing or group, rather than to details or specific cases or parts

本文プリントA: 左側半分にセンス・グループごとに改行した英文、右側に該当する和訳を並列した、サイト・トランスレーション形式のもの。

Lesson 7 Biomimetics	
Part 1	
① Biomimetics learns from natural systems. //	バイオミメティクスは自然のシステムから学ぶ学問である。
It tries to understand /	それは、理解しようとするものである
what nature does well /	自然が何をうまくこなしているかを
to work out problems. //	問題を解決するために。
It also tries to develop new technology. //	また、新しい科学技術を開発しようという試みでもある。
Although the word biomimetics is new, /	バイオミメティクスという言葉自体は新しいけれども
people have been looking to nature /	人々は自然を頼りにしてきた
to develop various products /	さまざまな製品を開発するために
for many years. //	長年。

本文プリントB: 上記本文プリントAで、英文の一部を空欄にしたもの。

Lesson 7 Biomimetics	
Part 1	
① () learns from () systems. //	バイオミメティクスは自然のシステムから学ぶ学問である。
It () understand /	それは、理解しようとするものである
() nature () /	自然が何をうまくこなしているかを
to () problems. //	問題を解決するために。
It also tries to () new technology. //	また、新しい科学技術を開発しようという試みでもある。
() the word () is new, /	バイオミメティクスという言葉自体は新しいけれども
people have been () nature /	人々は自然を頼りにしてきた
to develop () /	さまざまな製品を開発するために
for () . //	長年。

予習・授業展開・復習のパターン

予習: 生徒は、各パートの新出・既出に限らず未知の単語を辞書で調べ、単語帳を作成しておく。

授業展開: 各パートを、以下の手順で展開する。1パートにかかる時間は80～90分。Grammar / Structuresでの解説を除き、指示はすべて英語で行う。

【Vocabulary】

- (1) 語彙プリントBを配布し、生徒は各自の単語帳を用いて5～10分程度で空欄を埋める。
- (2) 指名して空欄の単語・イディオムを確認。終了後、解答として語彙プリントAを配布。

【Text input】

<本文プリントAを用いて>

- (1) 音声CDを聞く(1回)。

- (2)教師に続いてrepeating (2回)。
- (3)音声CDでoverlapping (2回)。
- (4)音声CDとのcompetition reading (2回)。
- (5)音声CDでshadowing (2回)。

＜本文プリントBを用いて＞

- (6)教師に続いてrepeating (2回)。
- (7)各自でreading practice (2～3分)。

＜本文プリントA・Bを用いて＞

- (8)Pair work: 1人は本文プリントBを用いて本文を暗唱, もう1人は本文プリントAを用いて相手に適宜ヒントを与えながら間違いを訂正。役割を交代して繰り返す。終了後, 教師の指示があるまで本文プリントBの空欄埋め, スペル確認し, input完了。

【 Grammar / Structures 】

教科書の本文ページを用いて, 以下の点を中心に板書説明し, 授業用ノートに書かせる。課末のGrammar and Structureに収められている例文, 問題も利用する。

- (1)新出文法・構文
- (2)派生語等の関連語彙・関連イディオム
- (3)指示語等の文脈理解
- (4)内容に関連した文化背景等

【 Activity 】

各課に関連した言語活動や内容質問等。

復習: 家庭学習として, 各自で予習ノート, ワークブックを完成させる。

授業展開での各手順の意図・留意点など

【 Vocabulary 】

語彙プリントの単語やイディオムは本文に出る順番で配列し, English definition中の難しい単語にはルビ機能で意味を添え, 1年生でも取り組みやすいレベルの課題を目指した。重要単語は年間を通して複数回扱い, また数種類の英英辞典を用いてdefinitionを変えるなどして反復演習を図った。年度当初はdefinition中の単語をすべて辞書で確認しようとする生徒が多く, 時間がかかったが, やがて作業に慣れると短時間で要領よく単語を推測できるようになった。English definition自体の和訳はあえて行わず, 同義語の理解に役立つ表現等のみ, 簡単に解説を加えた。英語で英語を理解する感覚を身につけるには効果的であり, また教科書本文に加えて英文に触れる量も確実に増えるため, 読解力育成にもつながると思われる。

【 Text input 】

- (1)音声CDを聞く(1回)。

比較的ナチュラル・スピードに近い録音が多く, 自然なリズムの英文に慣れることができる。

- (2)教師に続いてrepeating (2回)。

センス・グループごとにリピート。アクセントや発音の困難なものは個別に数回リピートさせ, イントネーションやリズム, 音の脱落・同化等も指導し, CDの音声に近づけるよう促す。同時に, 発音記号の説明も簡単に板書しながら視覚的に理解させる。生徒は各自プリントで和訳を確認しながらリピートし, 教師は和訳しない。和訳との意味関連が理解しにくい英文, 未習構文は説明することもあるが, 詳細説明はのちのGrammar / Structuresの部分で行う。

- (3)音声CDでoverlapping (2回)。

(2)での指導内容を生かしてoverlapping。

- (4)音声CDとのcompetition reading (2回)。

(2)の音声指導とは目的を異にし, 英文をよどみなく音読できるよう, 「速読み」の練習をする。個々の発音自体はおろそかにはなるが, CDプレーヤーのスピードコントロールで速度を上げ, それよりも早く読み終えるというスポーツ感覚で取り入れる。また, 視覚的に英文を追いつながりながら加速して音読するため, 英語に対する反射神経を鍛えることができる。

- (5)音声CDでshadowing (2回)。

1年生の年度当初は, 教師がゆっくりと本文を読み, それに続いてshadowingさせていたが, 学年後半からは音声CDを用いて行った。その橋渡しとして, 本文プリントを見ながら, それを読み上げるのではなく, CDの音声聞こえてからリピートするsemi-shadowingの練習をさせた。回数を重ねるうち, ノーマル・スピードの音声CDでも本文をときどき見るだけでshadowingができる生徒が増え, 完全なshadowingへと移行しつつある。

- (6)教師に続いてrepeating (2回)。

空欄の部分はゆっくり, 繰り返してリピートさせる。この段階までくると, プリントを見ずに教師の音声だけを聞いてリピートしようとする生徒も多い。

- (7)各自でreading practice (2～3分)。

個人で音読練習。机間巡視で個別に発音指導する。

(8) Pair work

ペアで相手に空欄のヒントを出し、間違いを訂正することで、互いにinput確認になる。この作業も年度当初は非常に時間がかかったが、徐々に短縮された。学年後半になると、本文プリントBの空欄を埋めながら暗唱するのではなく、和訳の部分のみを見て英文を言う生徒も増えた。

【 Grammar / Structures 】

本校では、英語表現 I で Vision Quest English Expression I (Advanced) を使用し、授業内容を連携、進度を調整しているため、コミュニケーション英語 I では詳細な文法説明は最小限にとどめている。この段階では音読を経て本文inputと意味理解が完成しているため、難度の高い関連例文、同義語・反意語や派生語、簡単な口頭英作文など発展的な内容を扱い、幅広い知識の習得を図る。また、教科書では本文が基本的に見開き 2 ページに収められているため、論理展開や構成が視覚的に把握しやすい。

【 Activity 】

主に以下のパターンのいずれかを各課で行う。

(1) 各課トピックに基づく Writing / Presentation

Team-teaching で ALT が指示・説明し、提出作品の添削を行う。

(2) 英問英答 Content questions

各自で本文を見ながら英答を完成させ、プリントに書き込み、それをういてペアで英問英答練習を行う。Teacher's Manual に収められている英問も利用する。

(3) 和問英答 Content questions

プリント類は使用しない。まず、内容的にポイントとなる部分を中心に、教師が全員に向かって 7～8 問程度を日本語で発問し、生徒は本文を見ながら各自英語で応答する。あえて教師からの解答は示さないことが多い。教師がひととおり質問例を示したのち、ペアになり、生徒が独自に作成した質問も含め、交代で和問英答練習を行う。和問ということで各生徒が気軽に作問でき、また本文・和訳確認の総仕上げの意味もある。時間配分の都合によっては、Text input の直後に短時間で行うこともある。

<和問英答例 / Lesson 7 Biomimetics Part 3>

Q1: 生態模写はどんな問題を解決するのに使われていますか。

→A: It is used to solve environmental problems.

Q2. 初期の新幹線にはどんな問題がありましたか。

→A: At first, the train made a loud noise when it entered tunnels.

Q3. カワセミのくちばしの形状は、何に役立ちますか。

→A: The shape of their beak makes it possible to dive with little resistance from the water surface.

(4) 英語による Summarizing

要約は高度な読解力を必要とし、英文ではなおのこと、苦手とする生徒が多い。上記【 Activity 】(2)(3) の延長として、以下の手順で基本的な要約練習の導入を試みつつある。

① 上記【 Activity 】(2)(3) での各自の英答を、本文を見ずに和訳を参考にして言えるよう練習させる。本文の英語表現にこだわらず、可能な限り自作の英文を交えるよう指示する。

② 代名詞等に留意しながら、すべての英答をつなげ、ひとつの summary passage となるように形を整えさせる。和訳だけを見ながら口頭で各自の英文 (summary passage) を言えるよう練習させる。

③ ペアで互いに自分の summary passage を発表し合う。ペアを変えて繰り返すことで fluency は明らかに向上し、また相手の summary passage を聞いて自分のものに取り入れ、改良しようとする様子も見られる。この作業では accuracy は重視せず、沈黙することなく本文をもとに自分なりの英語で表現することを目標とする。

この summary passage 活動を取り入れるようになると、content question は summary passage 作成の事前準備として捉える生徒が増え、生徒が独自に作成する question の質向上にもつながった。

授業展開上の問題点と今後の課題

直解式によるインプットの手順はこれまで様々な方法を試みてきたが、語学学習に対する生徒それぞれの意識や理解度の差は依然として大きく、40 人規模での展開の困難さを痛感している。音読練習も、上記の回数では不十分な生徒や、2, 3 回ですべて暗記できる生徒など様々で、レベル設定は容易ではない。家庭学習の一部として音読を奨励はするものの、やはり完成度は均一にならない。語彙プリントを宿題にすることもあるが、ほかの生徒の解答を丸写しして授業に臨む生徒もあり、

到達度に一層差が開くことにもなる。個々の能力に応じた展開・教材作成は、当然大きな課題である。

今後はGrammar / Structuresの展開形態を改良してActivityとのつながりを持たせ、outputの機会を増やしたいと考えている。学年後半では、これまでの膨大なinputを総合的に生かしたInterview testやMicro debateなども行い、実際の表現・伝達手段としての英語の役割を実感させ、次学年へとつなげたい。

Class () No.() Name ()

Lesson 3. How Asians and Westerners Think Differently

WORKSHEET #1.

Which object goes with which one? Explain why. You can ask Paul for help if you need :-)


Glasses


Shirt


Pants

Example 1.

Glasses and pants go together because we count them in pairs.

Example 2.

Shirts and pants go together because they are clothes.

1.


Mayonnaise


Eggplant


Cabbage

2.


Pen


Pencil


Eraser

3.


Blackboard


Hair dryer


Computer

4.


Cake


Coffee


Sushi

★ ★ ★ ★ ★

Analyze yourself – Write a short report and explain your way of grouping objects.
Use sentences from the text.

✓ Do you usually group objects according to relationships, or categories?

✓ Is your way of grouping Asian, or Western?

writing用ワークシート



海野 真帆

MAHO KAINO

和歌山県出身。アメリカ文学を専攻し、翻訳家志望だった頃も。全国高校英語ディベート連盟 (HEnDA) 関西地区2014年度代表理事。CNNアンカーマンAnderson Cooperの知的マシンガン英語が長年の憧れ。



地区拠点校における取り組み ～生徒が「使える英語」を実感するための 指導と評価方法～

岐阜県立郡上高等学校 若狭 幹大

使用教科書: ELEMENT English Communication I
単位数: 4単位

はじめに

本校は、平成25年度文部科学省委託事業「英語力を強化する指導改善の取組」に基づく「グローバル・コミュニケーション能力育成支援事業」の地区拠点校、そして平成26年度岐阜県英語教育イノベーション戦略事業の地区拠点校である。

平成25年度より実施の新学習指導要領に則った英語教育を実現するために授業改善に取り組み始めたのは両事業以前からであるが、克服すべき課題は多い。以下は、具体的に何をすべきかを模索しながら指導を進めている本校英語科の実践報告である。

本校の取り組み

本校が地区拠点校の指定を受けて最も効果があったのは、英語科教員間の協力体制が強化された点である。その礎になったのが教科会だ。一昨年度まではなかなか開くことができなかったが、昨年度からは週1回開いている。連絡事項の伝達や実施状況の報告、協議事項の話し合いだけではなく、ときには愚痴をこぼしたり指導上の悩みを打ち明けたりすることもある。日々の業務に忙殺される中、本事業の取り組みを比較的スムーズに遂行できたのは、協力し合う雰囲気築くことができていたからこそだ。

もちろん、軌道に乗せるまでには紆余曲折があり、最初から一枚岩というわけではなかった。そこで、英語科として独自にアンケートを実施し、生徒がわれわれ教員に何を求めているのかを把握し、その結果を基に授業改善を図っていった。

外国語は使わなければ、いつまで経っても使えるようにならない。当たり前のことであるが、英語が使えるようになるためには、まずは使わなければならない。したがって、「学んでから使う」授業ではなく「使いながら学ぶ」授業にシフトチェンジし、生徒の言語活動が授業の中心になるようにしている。

参加型である活動中心の授業は、「楽しい活動」や

「楽しい授業」という方向にどうしても偏ってしまいがちだが、すべての生徒にとって「わかりやすく」、「実力がつき」、かつ「楽しい」授業にするためにはハンドアウトを工夫する必要がある。

「ハンドアウトとは、『インプット→インテイク→アウトプット』の流れで英語運用能力を高める指導法を具現化したものであるべきだ。」と、岐阜大学・巽徹教授から指導助言を受けた。個々で動いたり、少数の教師のみが作成に関わったりすると、英語科全体でノウハウが蓄積されていかない。現在は、この考えに則って、まず1人の教師が作成し、それを担当の教師間で検討し、その結果を受けて修正したものを生徒に配布するようにしている。習熟度別クラスに分けているため、ハンドアウトに若干の難易度差はあるが、担当教師全員が同じハンドアウトを使って指導することで、すべての生徒に一定の質の授業を保証することができている。

English Communication | Lesson 6 Maria and the stars of Nazca - Part 4 Work Sheet No. ①

Warm-Up - Getting Ready to Speak

Talk About Yourself ※ Pair up in three patterns.

- ① Tell your partner what you did after school yesterday.
- ② Tell your partner what you are going to do this weekend.

⇒ Work in new pairs and tell your partner what your first partner said to you.

Today's Task - To Reach Today's Aim

Task① Listening Practice 1st

画像を見ながら本文を聞き、Outline(概要)を把握しよう

What did Maria find about the image?

Task② Word Checking ... Words & Phrases Sheetを使用

プロジェクターに投影されるWords & Phrasesを見ながら、発音・リズム・イントネーション等の音素的な特徴を捉え、音読しよう♪

Task③ Listening Practice 2nd

Listen to the CD.
Catch some information of the followings.

Who? When? Where?

Listen to the CD and answer T (true) or F (false).

- Maria was surprised to know that people in Peru didn't care about the lines. ()
- Because Maria was a German woman, she didn't have strong support. ()
- After she died, she was given many honors. ()

Listen to the CD and fill in the blanks.

- The lines and figures were in danger because people () over them.
- Maria () the lines and figures by herself.
- The () of Peru made the Nazca desert a special area.

Task④ Practice Reading ... 英語を英語のまままで理解する力をつけるために音読しましょう♪

Task⑤ Flip Writing ... 英語を英語のまままで理解する力をつけるために音読しながら書きましょう♪

Task ④ Memory Tree ... マップ状に広がつていくように本文の全体的内容を視覚的に整理しよう。

8

Surprising to Maria

9

Maria

10

Nazca

Task ⑤ Retelling ... Memory Treeを参考に内容を再話しよう♪

.....

.....

.....

.....

.....

指導(授業)と評価(テスト)の一体化

生徒が「使える英語」を実感し、学習に対するモチベーションを保ち続けるためには、「英語力がどれだけ伸びたかという実感」が不可欠である。生徒へのアンケートには「テストで良い点が取りたいから学習する」という意見もあり、日々の小テストや単元テストが生徒のモチベーション上昇になっていることは間違いない。

前出の異教授による理論面での裏づけも踏まえながら、定期検査問題を単語や文の意味を日本語で問うものではなく、授業中の4技能を駆使して行われる活動の過程(プロセス)や、運用能力(パフォーマンス)を見るものとして作成している。

<英語科の共通認識>

- ①「授業で具体的に何を頑張ればいいのか」という暗黙のメッセージを考查に込める。
⇒ 授業をする中で評価し、授業での頑張りがテストに直結する内容であること。
- ②「暗記すれば高得点」ではなく「どのように評価するか」から逆算して作成する。

定期検査の最大の目的は、生徒にきっちり点数を取らせることである。できれば全員満点が理想だ。これは現実的には無理ではあるが、平均点をできるだけ上げ

るように最大限の努力をするのが教師側の役割であると考えた。なぜなら定期検査は生徒の学力の定着を確認するためのものであるからだ。入試問題のように生徒の選抜が目的ではない。平均点が低いということは日頃の授業の在り方や教師側の教え方に問題があって、生徒が理解していないということを教師が振り返る最良のものさしとなる。

その具体策の1つは、どのような問題を出すのか、以下のように、生徒に事前に明示することである。

1. テスト範囲：

ELEMENT I p.65～97

(Lesson 6 Maria and the Stars of Nazca

～Lesson 8 The Boy Who Harnessed the Wind)

※ただし、Lesson 7はRetellingのみの出題となります。

学習のポイント

暗記力を問う出題形式にはなっていません。授業では何が重視され、どんな活動・内容に重きが置かれていたかを思い出しながら、各自学習を進めて下さい。

①Retelling…15点ほどの出題です。

Lesson 6 or 8に関しては非公表ですが、Lesson 7 Biomimeticsについては下記のように10点分出題します。必ず準備してきて下さい。

設問1.

Biomimeticsについて、下記のKey wordをすべて使って、2文の英語で説明を加えなさい。

Biomimetics learns from natural systems.

biomimetics, try, understand,
nature, develop, technology,
solve, environmental

設問2.

Biomimeticsの例について、下記のいずれかについて3文の英語で説明しなさい。

- hook-and-loop fasteners
- swimwear
- The 500 Series bullet trains

②発音…10点の出題です。

授業で音読活動をたくさんやりましたね。正しい発音・アクセントをチェック!

③内容理解…

今回は初見の応用問題は出題していませんが、教科書の本文は全て書き換えてあります。文法や単語力を単純に問うような「暗記力」を試す出題形式ではありません。

また、単純な日本語訳を問う問題も出題しません。

英語に苦手意識を持つ本校の生徒は、入学以前に英語への苦手意識を持ち、まったく取り組もうとしないタイプ、頑張って勉強しているが、なかなか成果が現れず、ますます苦手になってしまうタイプ、勉強をしなければと嫌々ながらやるが、結局はうんざりして投げ出してしまうタイプが多い。特にそういった生徒にLesson ○～Lesson ○と大雑把にテスト範囲を示すと、テスト勉強をしないどころか、授業にも集中しない。できるだけ早い段階で範囲を限定し、授業中にどんなことを頑張ればいいのか、そのために家庭学習では何をしてくればよいのか、テスト前に何を勉強してくるべきなのかを明確に示すと、生徒はやる気になる。やればできるという期待を生徒に持たせることが重要であると考えている。

もう一つの具体策は、単語や文の意味を日本語訳で問う「暗記すれば高得点が取れる」考查問題でなく、授業での活動や技能を評価することで、生徒一人ひとりの活動や運用能力を注視し、生徒の習得段階を見極めながら、授業中の活動と考查内容の一致を図る、つまり、「具体的に授業で何を頑張る、家でどのようなことをやればよいのか」という暗黙のメッセージを込めることである。

授業では身近で達成しやすい目標を用意する。英語に苦手意識がある生徒は授業中もどこをやればいいのか、何をやればいいのかわからない。手の届く目標があれば授業に参加する。授業中にできたことを実感し、成果が上がれば、取り組む姿勢、やる気は向上する。目標に向かって少しでも前進しているという手応えはとても重要である。

最初は生徒がある程度出題傾向を予想できるため、それでは甘すぎるのではという声もあった。点数だけを取らせても本当に理解したことにはならない、考查の時だけ覚えて時間が経ったら忘れてしまうなどの意見も

あった。しかし、考查の時すらやろうとしなかった生徒がいたことも事実である。

今は、定期考查とは生徒が勉強する機会であると捉えている。「点数が取れないからつまらない」ではなく、「点数が取れたから面白い」に変えられるチャンスである。日頃の授業や家庭学習を頑張れば良い結果が得られる。これを体感させ、生徒の意欲を引き出すことが重要である。

問題 Maria Reiche に関する英文を読んで、各設問に答えなさい。

Look at the picture on the left. Do you know the woman? Her name is Maria Reiche. She was from German. She studied the mystery of ①the lines and figures of Nazca and protected them for more than 50 years. Thanks to her effort, the white stones in the Nazca desert, which form the huge figures, continue shining like stars.

At first it was surprising to her that ②people in Peru did not care about the Nazca lines so much. People drove over the lines and damaged them. They even planned to build a waterway to grow plants in that area. Maria explained how important they were, but ③no one listened to her. She was only a German woman who did not have strong ④(s) from anyone. She guarded the lines by herself.

In the 1970s, the government of Peru finally made the Nazca desert a special area. Everyone in the town of Nazca grew to love and respect the lady who came from far away. Before she died in 1998, she was given many ⑤(h). One of them was the title of Great Lady of Nazca.

設問 1. 下記は波線部①について説明した英文です。本文の内容と合うように()内に適切な1語を書きなさい。ただし、最初の文字は与えられています。

They are very large lines and pictures of animals (d) on the (g).

設問 2. 波線部②の具体例として本文で述べられているものを、次のア～エのうちから1つ選び、記号で答えなさい。ただし、解答の欄は問からない。

ア. 石油や天然ガスなどの天然資源を採掘するために、地上絵のある地域を破壊していた。
イ. 地上絵のある地域を分断して幹線道路が建設されているため、一部が欠如してしまっている。
ウ. 地上絵のある地域で植物を育てるために、水路を建設する計画が持ち上がった。
エ. ベルレーは急激な経済成長と人口増加の結果、地上絵のある地域を宅地開発していた。

設問 3. 波線部③のような人々の様子を見て、Maria はどうしましたか。本文中から1文を抜き出しなさい。
設問 4. 下線部④について、下記の英語の意味の単語を入れなさい。ただし、最初の文字は与えられている。
help which you give to someone in a difficulty

設問 5. 下線部⑤について、下記の英語の意味の単語を入れなさい。ただし、最初の文字は与えられている。
something such as a special title given to someone

設問 6. 下記の欄に答える時、本文の内容と合うように()内に適切な1語を書きなさい。ただし、最初の文字は与えられている。

a. What did Maria think when she saw people in Peru damaging the lines and figures of Nazca?
— She thought she should ⑥(e) to the people ⑦(h) ⑧(i) the lines and figures were.

b. What happened to the Nazca desert in the 1970s?
— It was ⑨(m) a ⑩(s) ⑪(a) by the government of Peru.

設問 7. 本文の内容に合うものは T を、合わないものは F を入れなさい。
⑫ People in Peru know that the lines and figures of Nazca are very important now.
⑬ At first Maria had no strong supporters around her in Peru.
⑭ Before the 1970s, everyone eagerly listened to Maria's explanation about the lines and figures of Nazca.
⑮ Maria died before she was given the title of Great Lady of Nazca.

- 1 -

問題 下記は Maria Reiche へのインタビューです。英文を読んで、各設問に答えなさい。

Maria Reiche : Look at the picture on the right. Can you guess what it is?

Interviewer : Yes. This is one of the most famous images of Nazca.

Maria Reiche : ① { }. It is an image of a hummingbird. The

pictures drawn on the ground are more than 1,500 years old.

Interviewer : They are very old, but they were only found after planes

began to fly over the region. ② Why weren't they found for so many years?

Maria Reiche : Because they are () large () see the whole pictures from the ground.

Interviewer : You were born and brought up in Germany. When and why did you go to Peru?

Maria Reiche : When I was 28 years old, I found an advertisement for a teaching job in Peru. Soon I decided to take a job and left for Peru. I was hopeful about my job and the future. I really enjoyed teaching children.

Interviewer : I heard you had one unfortunate experience in Peru. What happened to you?

Maria Reiche : In my first two years, I injured my finger badly on a cactus. "Your finger is so bad that I have to cut it off," my doctor said. I lost one of my fingers.

Interviewer : ③ Oh, { }. Even after ④ the accident, however, you didn't leave the country. Tell me how you got interested in the lines and figures of Nazca.

Maria Reiche : I only started my study ⑤ () ().

In 1941, an American scientist told me about them. "Someone said that they were waterways. However, they must be the symbols of stars," he said. I was pretty interested in his idea, and promised to visit Nazca and to measure the figures. This was the beginning of my life-long study.

Interviewer : In 1952, you encountered ⑥ a new figure that determined your life. Tell me more.

Maria Reiche : That was the image of a monkey. When I measured it carefully and drew the entire picture correctly, I was very surprised that I noticed something about it. One hand of the monkey had only four fingers, just like me. "Why?" I wondered. I asked people who knew the old Nazca stories about ⑦ its meaning. They told me, "Nazca people believed that people with disabilities have a special power to communicate with the gods."

Interviewer : You thought that it was your destiny to solve the mystery of Nazca, didn't you?

Maria Reiche : ⑧ { }. I looked at my own hands and said to myself, "Have I been chosen to uncover messages for the gods? It must be my destiny to study the secrets behind the lines and figures of Nazca." I felt this in my heart.

設問 1. 会話の流れに合うように、下線部①②③の { } 内に英文を入れなさい。

設問 2. 下記は波線部④の問いについて Maria の答えを示した英文です。本文の内容と合うように()内に適切な1語を書きなさい。ただし、最初の文字は与えられています。

Because they are (t) large (t) see the whole pictures from the ground.

設問 3. 波線部⑤の具体的な内容を日本語で書きなさい。

- 2 -

設問4. 下線部⑤が『私が研究を始めたのは偶然にすぎなかった。』という意味になるように()内に適切な1語を書きなさい。

設問5. 波線部⑥を本文中の5語で言い換えなさい。

設問6. 波線部⑦が意味するものとして適切なものをア～ウから1つ選び、記号で答えなさい。

ア. サルの絵が描かれた意味
イ. 指の数が不自然な動物を描いた意味
ウ. 地上からは全体像が見えないほど大きな絵を描いた意味

設問7. 本文の内容と合うようにア～オの()内に適切な1語を書きなさい。ただし、最初の文字は与えられています。

ア. When she drew the entire picture, Maria noticed that one hand of the ⑤(m) had only four fingers.

イ. In her first two years, Maria lost one of her ⑥(f) because of an accident.

ウ. Maria went to Peru to work as a ⑦(t) at the age of 28.

エ. Maria thought that it was her ⑧(d) to solve the mystery of Nazca.

オ. In 1941, an American ⑨(s) told Maria about the lines and figures of Nazca.

設問8. 設問7のア～オの英文を話の順に並べ替えなさい。

定期考査③ 内容理解問題

まとめ

最も重要なポイントは、簡単な出題で点数を取らせることだけに目を奪われないことだ。そして、「どのように評価するか」から逆算してテスト問題を作成することである。これらが、日々の授業改善につながっている。だからこそ、単なる暗記・記憶力テストに陥らない、学習したことが活用できる内容にするべきなのである。

暗記としての知識ではなく、英語の習得を図るために、まずは「読む」、「聞く」活動を通して情報を受信し、理解したことを自分で考え、自分で判断し、表現する。そして、それらを「書く」、「話す」活動につなげていくという授業を今後も展開していきたいと考えている。



若狭 幹大

MIKIHIRO WAKASA

今年で9年目。「拠点校研究主任」と「硬式野球部監督」の二刀流に全力投球。生徒に目線を合わせ、笑顔で授業を進めることを信条とし、授業力も日々勉強と、さまざまなセミナーや研修会に参加している。



LANDMARK・Vision Quest・Word Navi をつなげる三位一体の学習法

北海道帯広三条高等学校 香川 喜義

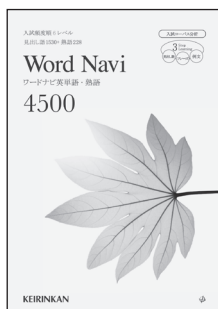
使用教科書: LANDMARK English Communication I

単位数: 5単位

使用副教材: Word Navi 4500, LANDMARK Workbook Standard

はじめに

週6回の授業でLANDMARK English Communication I(以下LM)を軸に, Vision Quest English Expression I Advanced(以下VQ Advanced)で文法を, Word Navi 4500(以下WN)で単語・熟語を学習し, 「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能の基礎を1・2年生で築く学習方法である。



Word Navi 英単語・熟語4500

授業の進め方 1

→ p.13 学習チャート参照

授業の進め方 2

1. WNの学習

毎時間, 授業開始時にWNを使用。1週間に50単語習得を目標とする。

〈月曜日〉50単語の発音とアクセントに注意して音読し, 同意語・反意語にも注目させる。生徒は家庭でWNの音声データ入りCD-ROMを使って学習する。

〈火曜日から木曜日〉50単語を発音・アクセントに注意して2回ずつ音読し(3分), その後, 50単語中15単語を“Test Factory”(自動問題作成ツール)を使って, 意味の確認テストを行う。(1分)

〈金曜日〉50単語の「英語→日本語(4択)」のテストを行う。満点者と各クラスの平均は, 学年通信で発表。

2. LMの学習

①Teacher's Manualの補充資料集を使って背景知識を学習する。

②パートの文法などを「音読ハンドアウト」(図1)で簡単に説明。

LESSON 6 The Doctor with the Hands of God
(It is 形容詞 that SV~, の形式主語構文)
(Vision Quest 不定詞② (知覚動詞) p.54~55)

P4P2

STEP 2
目的: ①正しい発音で音読します。
②下線部のついた STEP 1 で覚えた単語・熟語・文法を意識しながら音読します。

(Part 4)
Today, as an experienced surgeon, Dr. Fukushima teaches his methods to students and younger doctors. One time, during an operation, a younger doctor made a mistake. As soon as Dr. Fukushima noticed it, he took the surgical knife away from the doctor. He then went on lecturing the doctor for six hours while he was correcting the mistake. When he ★sees younger doctors working too slowly, he always ★teaches them to work more quickly and carefully. He is a strict teacher but the younger doctors respect him very much. They know that the patient is always his top priority.

Dr. Fukushima is very gentle and friendly with his patients. Even before difficult operations, he always says to them, "I am here for you, so relax. You are in good hands." He does not ★mean to show off his skills. He only ★wants all of his patients to feel at peace. He says, "When I ★see my patients smile after successful operations, I feel truly happy. I believe I ★have found my purpose in life."

図1 音読ハンドアウト

③パートの「単語・熟語・文法ハンドアウト」(図2)を使い, 発音・アクセントに注意して2回ずつコーラスリーディング。

LESSON 6 The Doctor with the Hands of God
(It is 形容詞 that SV~, の形式主語構文)
(Vision Quest 不定詞② (知覚動詞) p.54~55)

P4P1

Part 4
STEP 1
目的: 単語・熟語・文法を覚えることによって, 英文を読めるようにします。英文読解の基本です。
重要度: ★★新たに学習する文法表現 ★これまでに学習した文法表現
◎長文読解表現で問題に関わるもの ○長文に時々出てくる表現

重要度	英語	日本語	WN/VQ	訳語
★	as~	～として	WN1487	前置詞
★	experienced	経験豊かな	VQ p.56A	形容詞
○	surgeon	外科医	WN1749	名詞
○	method	方法	WN0059	名詞
○	one time	あるとき	WN0059	副詞
○	during~	～の間	WN0050	前置詞
○	operation	手術	WN0050	名詞
○	make a mistake	ミスを犯す	WN0055	熟語
○	As soon as SV	SがVするすぐに	WN1749	接続詞
○	notice~	～に気づく	WN0075	動詞
○	take~ away from...	...から～を取り上げる	WN1548	熟語
○	surgical knife	外科医用手刀	WN1548	名詞
○	go on lecturing	説教し続ける	WN1548	熟語
○	correct the mistake	ミスを修正する	WN180	熟語
★	see A doing	人がdoingしているのを見る	VQ P.66 C8	分詞
★	teach them to work	彼らに作業をさせる	VQ p.54B	不定詞
○	quickly	迅速に	WN0059	副詞
○	carefully	注意深く	WN1487	副詞
○	strict	厳しい	WN0043	形容詞
○	respect~	～を尊敬する	WN0043	動詞
○	patient	患者	WN0190	名詞
○	top priority	最優先事項	WN1104	名詞
○	gentle	優しい	WN1404	形容詞
○	friendly	親しみがある	WN1404	形容詞
○	Even~	～さえも	WN0475	副詞
○	relax	リラックスする	WN0475	動詞
○	be in good hands	安心してまかせる	WN0475	熟語
○	mean to show off	誇示するつもり	WN1721	熟語
○	skill	技術	WN0111	名詞
★	want A to do	人にdoしてほしいと願っている	VQ p.54B	不定詞
○	feel at peace	安らかな気持ちになる	VQ p.54	熟語
★★	see A smile	人が笑顔になるのを見る	WN0059	動詞
○	successful	うまくいった	WN0171	形容詞
○	truly	本当に	WN0091	副詞
★	have found~	～を見つけ出した	VQ p.24A	動詞
○	purpose	目的	VQ p.24A	名詞

図2 単語・熟語・文法ハンドアウト

- ④各自で「単語・熟語・文法ハンドアウト」を発音・アクセントに注意しながら音読・暗唱。(3分)
- ⑤ペアワークで「英語→日本語」の意味を確認。(4分)
- ⑥「音読ハンドアウト」でフレーズと全文をコーラスリーディング。(3分)
- ⑦各自で「音読ハンドアウト」の音読。1回目は、発音・アクセント・リズムに気をつけて音読。2回目以降は、できるだけ速く音読。(速読・リスニングのトレーニング)(3分)
- ⑧「音読ハンドアウト」で英語をチャンクごとに音読し、チャンク音読通訳。(4分)その際、わからない単語・熟語・文法は「単語・熟語・文法ハンドアウト」で確認。
- ⑨「音読ハンドアウト」で英語を1文ごとに音読し、全文音読和訳。(3分)その際、「和訳ハンドアウト」(図3)を参照しながら意味を確認。

和訳	
今日、経験豊かな外科医として、福島医師は学生や若手の医師に自分の手法を教えています。あるとき、手術中に若手の医師がミスを犯しました。福島医師はそれに気づくとすぐに、その医師から外科用メスを取り上げました。それから福島医師はミスを修正しながら、6時間その医師に説教し続けました。彼は若手の医師たちがあまりにもゆっくりと作業しているのを見ると、彼らにもっと迅速に注意深く作業するよう常に教えます。彼は厳しい教師ですが、若手の医師たちは彼をとてとても尊敬しています。患者が常に福島医師の最優先事項であることを彼らは知っているのです。 福島医師は患者にとてとても優しくて親しみがあります。難しい手術の前でさえ、彼は常に患者に言います。「あなたには私がついてるから、リラックスして。安心して任せてください。」彼は自分の技術を誇示するつもりはありません。患者全員に安らかな気持ちになってほしいだけなのです。彼は言います。「うまくいった手術のあとで患者さんがほほ笑むのを見ると、私は本当にうれしくなります。私は人生の目的を見つけたのだと思います。」	

図3 和訳ハンドアウト

※当初、訳読をするかどうか悩んだが、英語学習の基礎段階のうち、単語・熟語の意味を母語である日本語で理解し、文法は形とその意味を覚えることによって、スムーズに習得できることがわかった。ただし、訳読の方法は教えず、各自、和訳ハンドアウトを見て、自分が考えた訳と確認させるようにした。基礎段階を2年生の10月ごろまで行い、そのあとは直読式に変えていく予定である。

- ⑩各自、サイトトランスレーション用の「サイトラハンドアウト」(図4)で日本語から英語へのインプットトレーニング。(3分)

LESSON 6 The Doctor with the Hands of God (It is 形容詞 that SV~, の形式主語構文) (Vision Quest 不定詞② (知覚動詞) p.54~55)	
P4P4	
Part 4	
目的: STEP1 で覚えた単語・熟語・文法をサイトで確認し、覚え直します。	
★★ Lesson 6の重要文法事項	
★ Lesson 1~5の重要文法事項	
Today, <u>～として</u> an <u>経験豊かな 外科医</u>, Dr. Fukushima teaches his <u>手法</u> to students and younger doctors. <u>ある時, 間の間</u> an <u>手術</u>, a younger doctor <u>ミスを犯しました</u>. <u>～するとすぐに</u> Dr. Fukushima <u>～に気づくと</u> it, he <u>外科用メスを取り上げました</u> the doctor. He then <u>続けました</u> <u>説教すること</u> the doctor for six hours while he was <u>～を修正しながら</u> the <u>ミス</u>. When he <u>★若い医者たちが作業しているのを見ると</u> too slowly, he always <u>★彼らに作業するよう教えます</u> more <u>迅速に</u> and <u>注意深く</u>. He is a <u>厳しい</u> teacher but the younger doctors <u>尊敬しています</u> him very much. They know that the <u>患者</u> is always his <u>最優先事項</u>. Dr. Fukushima is very <u>優しい</u> and <u>親しみがある</u> with his <u>患者</u>. <u>～でさえ</u> before difficult <u>手術</u>, he always says to them, "I am here for you, so <u>リラックスする</u>. You <u>安心して任せる</u>." He does not <u>★～を誇示するつもりがある</u> his <u>技術</u>. He only <u>★患者全員に安らかな気持ちになってほしいのです</u>. He says, "When I <u>★患者さんがほほ笑むのを見る</u> after <u>うまくいった手術</u>, I feel <u>本当に</u> happy. I believe I <u>★目的を見つけたのだ</u> in life."	

図4 サイトラハンドアウト

- ⑪ペアワークで「サイトラハンドアウト」の確認。相手が答えられなかった部分を蛍光ペンでマークし、あとで復習できるようにする。

3. VQ Advancedの学習

- ①LM各レッスンの重要文法項目に沿ってVQを使用。例えば, Lesson 6 “The Doctor with the Hands of God” ではVQ Advanced pp.54-55の「C. SVO+原形不定詞」を学習する。

目的は、英文読解のための文法学習である。特に、LM I はL1～L7まで、「文型」「完了」「不定詞」「動名詞」「分詞」「関係詞」という、英文読解のための基本文法項目が多く載っているため、これらの文法事項を何度も学習することによって知識の定着を図ることができる。

- ②初出の文法事項はVQ Advancedを使用し、2回目以降はVQ StandardワークブックとVQ Advancedワークブックを使用する。

4. LMの復習

- ①指導用音声CDに収録されている、教科書脚注のQuestionsを使用して英問英答を行う。その際、解答を音読・和訳させて単語・熟語・文法の確認を行う。

②同CDに収録されている課末のComprehension 2 (T/F問題)を使用する。その際、問題文を音読・和訳させることによって単語・熟語・文法の確認を行う。問題文が正答の場合、WNやVQ Advancedを用いて、本文から問題文へどのように言い換えられているかを解説する。誤答の場合、「何となく間違っている」で終わらせるのではなく、「単語」「熟語」「文法」のどれが間違っているのか、WNやVQ Advancedのページを用いながら解説する。このことによって、T/F問題が「単語・熟語・文法」の力を確認する問題となり、LM・VQ・WNで学習したことがつながるような指導をしている。

5. ALTとのTTで文法項目のアウトプット

各レッスンの文法項目を使ったゲームをALTに考えてもらい、アウトプットのトレーニングを行う。

6. LMの総復習〈宿題〉

生徒に「復習ノート」を用意させ、各レッスン終了後、本文の英文を書かせ、その下に和訳を書かせる。和訳の確認は、「和訳ハンドアウト」を使って行い、赤ペンで訂正させる。これは模試の解き直しを想定したもので、受験勉強において自学自習できる習慣をつけるための指導である。生徒によっては、忘れていた単語を一覧にしたり、文法項目について『VQ総合英語』の解説を書き写したりして、自分だけの「復習ノート」を作成している。良い「復習ノート」はコピーして生徒に配布し、情報共有も行っている。また、「復習ノート」を作成することによって、学習量の確認ができ、自信にもつながっているようだ。



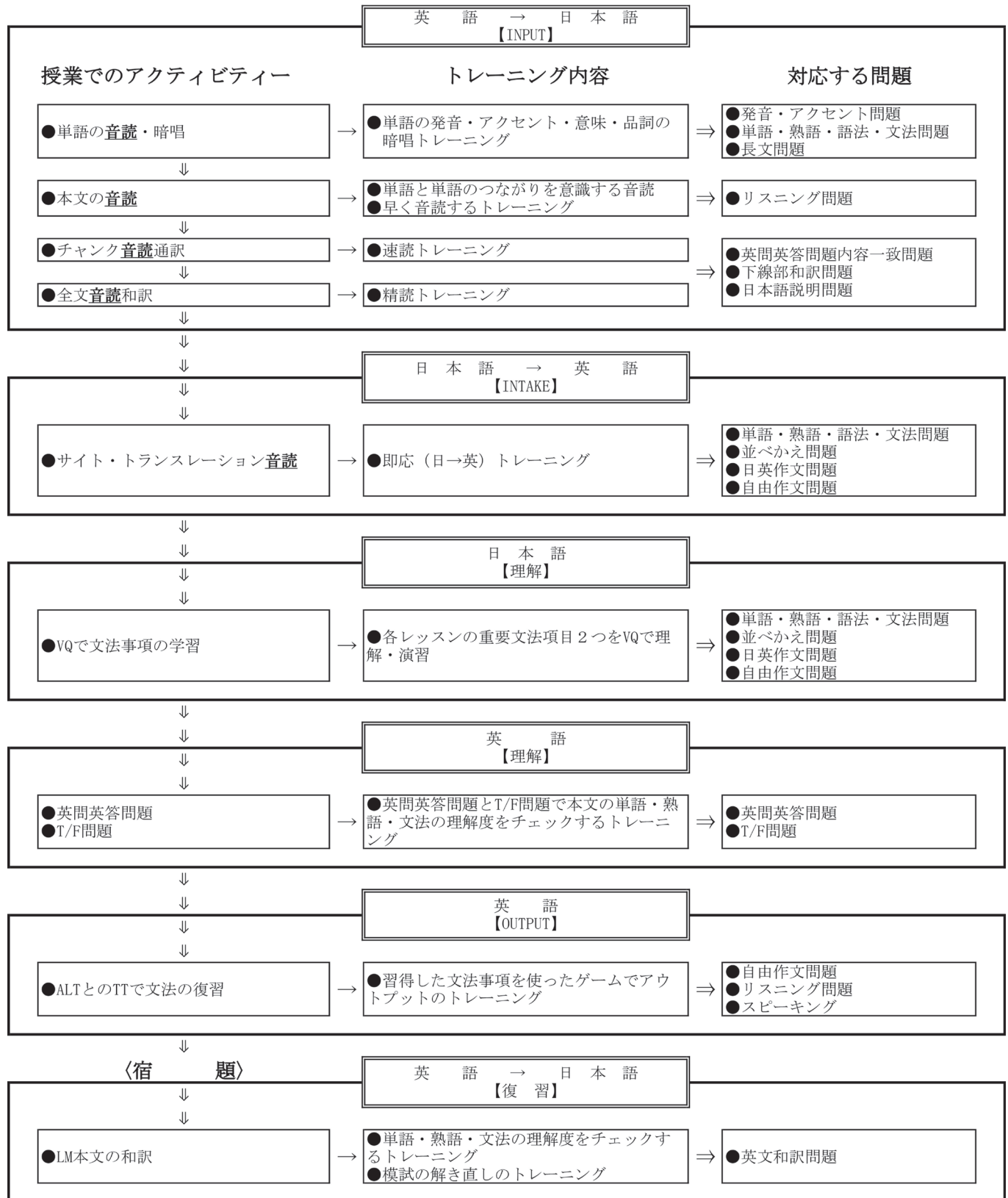
香川 喜義

KIYOSHI KAGAWA

北海道帯広三条高等学校卒業後、札幌大学外国語学部英語学科に進学。大学在学中に姉妹校の米国ネブラスカ州立Kearney State Collegeに1年間交換留学。大学卒業後、東京の医療機器会社で2年間国際事業部欧米輸出担当。2年間、米国のハードディスク製造販売会社で購買部を担当。北海道浜頓別高等学校、北海道滝川高等学校を経て、現在、北海道帯広三条高等学校の1学年担任。テニス部顧問。英検面接委員。

学習チャート

【帯広三条英語の学習プロセス（過程）と学習効果（成果）】



※音読は学習のための手段であり、目的ではありません。つまり、音読がゴールではないということです。

音読を常に行うことによって、自然に「発音・アクセント」を覚えることができ、さらに「リスニング」にも対応できます。

単語・熟語・文法は英語を読み、書き、聴き、話すための基本です。

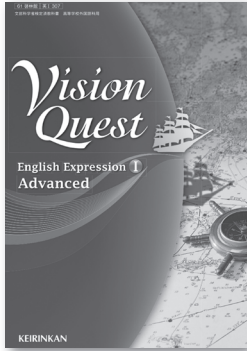
基本的な単語・熟語・文法を習得した後は、文をたくさん読みましょう（多読）。文の流れ（論理関係）が分かるようになります。

これらのことを2年間続けると、受験問題に対応でき、さらに将来、英語を使うことができるようになります。

参考資料 LANDMARKコミュニケーション英語 I とVQ Advanced英語表現 I の文法対応表

啓林館編集部 作成

LANDMARKコミュニケーション英語 I		VQ Advanced英語表現 I	
レッスン	文 法	レッスン	文 法
Pre-Lesson 1	主語と動詞	Lesson 2	G-1
Pre-Lesson 2	品詞	Appendix	付表 1
Pre-Lesson 3	句と節	——	——
Pre-Lesson 4	フレーズリーディング	——	——
Lesson 1	G-1 動名詞	Lesson 8	G-1
	G-2 不定詞	Lesson 7	G-1
Lesson 2	G-1 分詞の後置修飾	Lesson 9	G-1
	G-2 現在完了形	Lesson 4	G-1
Lesson 3	G-1 関係代名詞	Lesson 10	G-1
	G-2 S+V+疑問詞節/S+V+O+疑問詞節	——	——
Tips for Listening 1	まぎらわしい音	Lesson 3	Pronunciation
		Lesson 4	Pronunciation
Tips for Listening 2	アクセント	Lesson 7	Pronunciation
Lesson 4	G-1 seemの用法	Lesson 7	G-3
	G-2 現在完了進行形	Lesson 4	G-1
Lesson 5	G-1 過去完了形	Lesson 4	G-2
	G-2 使役動詞+O+動詞の原形	Lesson 7	G-2
Lesson 6	G-1 It ～ thatの形式主語構文	——	——
	G-2 知覚動詞+O+動詞の原形/現在分詞	Lesson 7	G-2
		Lesson 9	G-1
Tips for Listening 3	強い音・弱い音	Lesson 2	Pronunciation
Tips for Listening 4	つながる音	Lesson 8	Pronunciation
Lesson 7	G-1 前置詞+関係代名詞	Lesson 10	G-2
	G-2 関係副詞	Lesson 10	G-3
Lesson 8	G-1 分詞構文	Lesson 9	G-2
	G-2 関係代名詞what	Lesson 10	G-2
Lesson 9	G-1 倍数表現	Lesson 11	G-1
	G-2 仮定法過去	Lesson 12	G-1
Tips for Listening 5	聞こえなくなる音	Lesson 10	Pronunciation
Tips for Listening 6	変わる音	Lesson 9	Pronunciation
Lesson 10	G-1 関係代名詞の非限定用法	Lesson 10	G-2
	G-2 仮定法過去完了	Lesson 12	G-1



ペアワークやプレゼンテーションを取り入れた英語表現の授業

愛知県立高蔵寺高等学校 堀場 雅博

使用教科書: Vision Quest English Expression I Advanced

単位数: 2単位

使用副教材: Vision Quest総合英語, WORKBOOK

使用機器: iPod touch, Bluetoothスピーカー

はじめに

あらためて実践記録というほど大層なことをしているわけではないが、自分の授業で実施していることを紹介したい。先生方のご指導の一助になれば幸いである。

学校について

本校は名古屋市近郊の緑豊かな春日井市東部に位置し、ほとんどの生徒が国公立大学への進学を希望している進学校である。1年生は9クラスで、合計360人が在籍している。

英語表現の授業の流れ

英語表現は、1クラス(40名)を2講座に分けて20人による少人数教育を実施している。のちほど述べるが、生徒に英語に親しみを持たせ、文法事項も記憶に残るように、授業の中でプレゼンテーションやペアワークを取り入れている。

①小テスト

毎授業の始めに、『Vision Quest総合英語』付録の基本例文集より、基本例文の小テストを実施している。教科書の範囲と関連づけて出題するが、教科書の進度によっては、小テストで出題される例文が教科書の予習になることもある。

②文法指導

Grammarの説明を行う。単語の発音を意識し、学習段階で発音記号を調べて単語を読めるように求めている。基本例文は生徒がペアになって読むなど、一方的な授業にならないようにしている。

③問題演習

生徒が自宅で解いてきたExercisesの確認を行う。ここでも単に解答するだけでなく、作成した解答の文をきちんと読めるように音読指導を行っている。解答を確認したのち、ペアワークで音読して定着を図る。WORKBOOKはなかなか授業で扱う時間が取れないので、定期テスト前に週末課題として使用している。

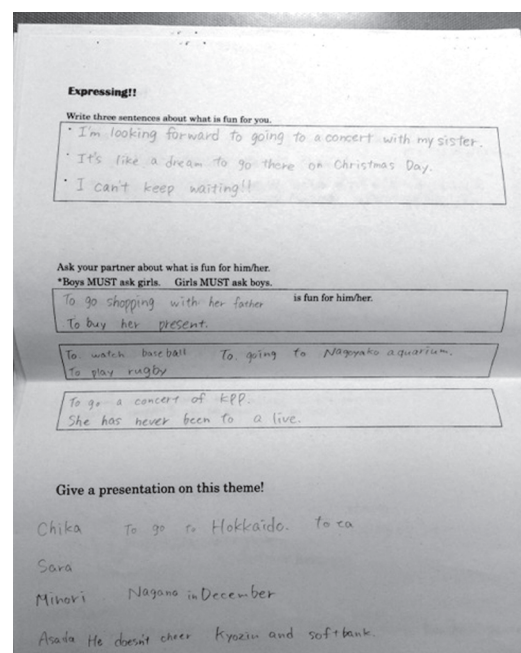
また、定期テスト当日にWORKBOOKを回収し、テスト範囲までの解答状況を点検し、平常点として評価に入れている。

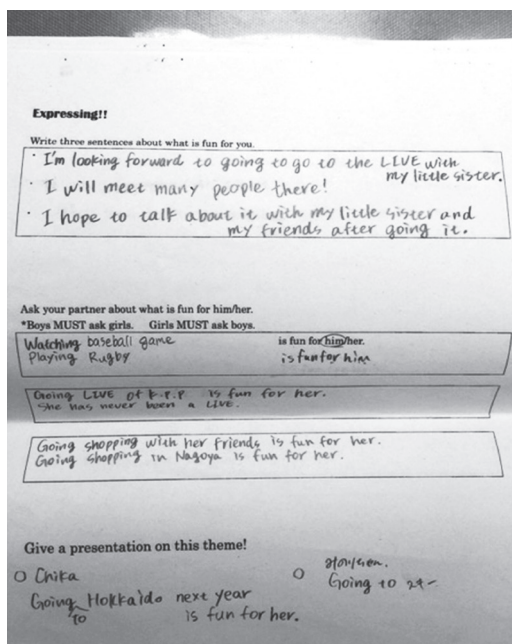
ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションについて

毎時間ではないが、教科書のUse itやExpressingを利用してペアワークなどを行っている。

例えば、Use itの「あなたにとっての楽しいことを3文で書きなさい」という題目に対して、あらかじめ自宅で文章を考えてくるよう指示する。その際、授業で習った文法表現をなるべく使うよう伝えておく。

授業では、まず、配布したプリントに各自考えてきた文を記入するよう指示する。次に、生徒がペアになって、1人が「What is fun for you?」と質問し、もう一方が用意してきた文を答える。ペアの相手を替えたり、机の2列ごとに時計回りもしくは反時計回りに生徒を移動させたりすると、短い時間で全員のペアを替えられる。何回やっても時計回りがどちらかがわからない生徒がいるのはご愛嬌だ。





最初は記入したプリントを見ながらペアワークを行い、相手の答えをプリントにメモする。頃合いを見はからって、プリントを見ずにペアワークを行うよう指示する。生徒は「えっ?」という顔をするが、プリントがなくても案外できるもので、ペアを替えつつ何度か行くと、プリントを見なくてもやりとりができるようになる。



今度は、相手が答えたあとにコメントを一言伝えるようにする。たとえば “It's good!” や “I like it, too.”, “It's strange.” など簡単なコメントで良いと伝えと、生徒はコメントを加えやすい。コメントを加えることがだんだんできるようになってきたら、次は、ペアワークの始めに “Hello.” や “Nice to meet you!”, “I haven't seen you for a while.” などあいさつを加えて、街で友人と偶然会ったような場面を想像させ、限りなくフリートークに近い形にして、ペアワークを実施する。ペアワークを始めた時は硬くてややぎこちなかった生徒たちも、フリートーク形式になる頃にはすっかり英語を話すこと

に慣れて、握手やハイタッチをする者も出てきて、楽しく英語を話すようになる。クラスもがやがやとパーティー会場のような賑やかな雰囲気となる。相手の話の途中で質問しても、“Me, too!” と相手に同意しても良い、などと指示すると、話がとても盛り上がるペアが出てきた。

ペアワーク終了後、いったん自分の席に戻る。自分の考えた英文を発表したい人を募り、教員が相手になってほかの生徒の前でペアワークを行う。生徒は英語を話すモードに切り替わっているが、自発的に出てくれる生徒が少ない場合は、こちらから指名すると、特に躊躇することなく、むしろ面白がってくれるケースがほとんどである。

ほかの生徒の前でペアワークを行うときは、生徒の言った内容に対して質問をする。例えば、生徒が “I like to watch baseball.” と言えば、“Which team do you like?” と質問する。生徒同士でフリートークを行ったあとだと、こちらが考える以上に、上手に受け答えができる生徒が多い。

時間をもっと使えるときは、生徒によるプレゼンテーションを行う。まず、4人程度の班をつくり、机を移動する。班の中で決めたリーダーが司会進行を務め、生徒が順番にプレゼンをしていく。聞いている生徒は必要に応じてメモをとり、班の中で最も良いプレゼンを行った生徒（＝班代表）を選ぶ。この間は班のリーダーの進行のもと、班代表選出の投票まで行い、教員から特に細かい指示は出さない。





次に、各班の代表が教壇に立ってプレゼンを行う。例えば、今回の“What is fun for you?”という題目では、ある生徒が“I’m looking forward to going shopping with my father. My father said he will buy a present for me. It’s a birthday present for me.”と、プレゼンを行った。プレゼンののち、生徒たちからは“Do you often go shopping with your father?” “What present will he buy for you?” “When is your birthday?” など、簡単な質問が班代表に投げかけられる。班代表は、時にジョークで答えるので、聞いている生徒が盛り上がることもある。生徒たちは日本語で話すときよりも堂々としていて、別人のようにも感じる。「英語を話していると、ふだんとは違う自分になれるのだろうか?」と思う。



各班の代表によるプレゼンの終了後、生徒にどのプレゼンが良かったか話し合ってもらう。これまでは、聞いている生徒たちに、自分の班以外のプレゼンでどれが良かったか話し合い、クラス内最優秀者を決めていたが、判定が難しいことや、最優秀になれなかった生徒のことを考えて、最近は班代表の生徒間での優劣を決めることはしていない。授業中、小さな声でしか話せない

かったり、テストでなかなか良い点を取れなかったりする生徒が、驚くほど立派なプレゼンを行うことがよくあって驚かされる。ふだんの文法事項の解説や問題演習のときよりも、生徒はペアワークやプレゼンをとても楽しんでやっているように見える。

最後に

プレゼンの授業を始めたとき、生徒ができるかどうか不安があったが、一度実施して、生徒が形式をつかんでしまえば、あとはスムーズに進行する。最近は、英語を話すことを苦に思わず楽しんで行う生徒が多いので、ペアワークやプレゼンを取り入れて授業を実施すると、「英語は楽しい」と感じてもらえるのではないだろうか。学期末に実施した授業アンケートでも同様の傾向が出ている。英語を習って問題を解くだけでなく、実際にクラスメイトと英語を使う機会を設けることによって、知識が定着し、何より英語を好きになってもらえるのではないかと考える。



堀場 雅博

MASAHIRO HORIBA

愛知県出身。名古屋大学文学部卒業。大学での専門は英語学。趣味は海外旅行、自転車、映画鑑賞。



コミュニケーション英語でのVision Quest English Expression I Standardの活用法

霞ヶ浦高等学校 大澤 直樹

使用教科書: Vision Quest English Expression I Standard

ELEMENT English Communication I

単位数: 英語表現I / 2単位 / コミュニケーション英語I / 3単位

使用副教材: 生徒用音声CD, Vision Quest総合英語

はじめに

英文法は英語を理解・表現する上での基礎であり、文法の理解なしに英語の上達は望めない。そのため正確な英文の暗記を目的として授業をしている。Vision Quest English Expression I Standard(以下VQ)は、この目的を達成するのに非常に適した内容になっている。本稿では、本来、英語表現の授業で使用するVQをコミュニケーション英語Iの授業で使用するメリットや方法について紹介したい。

本校について

現在、本校の生徒は難関大学に進む者もいれば、専門学校や公務員、一般企業に就職する者もいる。近年では進学校化を目指し、国公立大・難関私立大の合格者数の増加に力を入れている。

2014年度は国公立・中堅私立大を目指すコース(中学時の定期試験の点数は6割ほど)を担当しているため、センター試験を念頭に置いた授業を心がけている。特に本校の目標としている国公立大学合格者数の増加に向け、リスニングや長文読解指導に重きを置いている。1年生は英語表現Iが2単位、コミュニケーション英語Iが3単位である。

授業について

筆者が行っているコミュニケーション英語Iの授業では、基本的にELEMENT English Communication I(以下ELEMENT)を使用している。しかし、年度初めは本文の内容をほぼ理解できない生徒が多かった。そのため、1レッスンのターゲットとなる文法事項を理解させるために、VQを併用することにした。中学英語が完璧でない状態で難しい文を理解させようとしても無理が生じる。そこで、各レッスンに入る前に中学の既習事項を踏まえた文法指導の時間を設けた。生徒も多くの文法問題に触れたことで、文法に徐々に慣れ、英文のルールをつかむ感覚を得ることが出来るようになった。この活動

には1時間じっくりかけることが多く、週3時間のうち1時間を使うことになるが、「教科書を終わらせなければいけない」という考えにとらわれず、正確に理解させてから次のレッスンへ進みたいと考えている。ウォームアップのあとは、学んだ文法がELEMENTの長文のどの場面で使われているかを意識させて読ませている。

コミュニケーション英語で特に重点を置いているのは音読である。音読することで目・耳・口を使い、より多くの五感を刺激することで単語の暗記にもつながる。そうすることで接頭辞や接尾辞等の知識も活用できるようになるので、ほかに単語を暗記する必要もなくなる。

そのほか、リスニングでも本文内容を理解できるようにしている。その際、自分で発音できない単語は聞き取ることではできないので、ただ音声CDを聞くだけでなく、一緒に音読するよう指導している。正しい発音やイントネーションを定着させることで、センター試験の発音問題対策もできる。音読は家庭学習指導でも推奨している。

ただ、文法理解や長文理解、音読だけでは、未知の文が出題される模試やセンター試験に対応できない。未知の文章を速く読めるようになるには、瞬時に頭の中で英語を理解し、英語を作り出すことができる「英語脳」が必要だと考えるが、多くの生徒はバイリンガルでもなく、どうしても英文を解釈する際に日本語が浮かんでしまうものである。しかしそれで良いのではないだろうか。要はリスニングにしろ、長文にしろ、英文解釈の速度を上げればよいのである。英文解釈の速度を上げるには様々な方法があると思うが、筆者は1冊の教材をとことんやり込んだほうが、それを基盤にして、ほかの問題にも対処できるようになると考えている。

そこで、『Vision Quest 総合英語』付録の基本例文集を活用することにした。基本例文集は左のページに日本文、右のページにそれに相応する英文が載っている。中学での既習表現ももちろんのこと、高校で学習する表現が多数取り扱われている。何よりも生徒が理解しやすいよう、例文が平易な単語で構成されている。さらに教

科書で扱っている基本例文も載っているの、生徒は抵抗なく取り組むことができる。『総合英語』には音声データ入りCD-ROMも付録でついているので、自宅に帰ってから発音をチェックし、正しく発音できるようになるまで何度も練習することが可能だ。朝補習や放課後の補習（毎日各30分）の中でも、基本例文集を使ったテストを2回ずつ行っている。基本例文集の10～30文を1セットとして、1～3分以内に日本語を見て英語を瞬時に言うテストで、クリアしたら次のセットへと進めるというルールだ。テストまで生徒は必死に音読練習をしている。講義形式ではないので、生徒からは「新鮮で集中できる」という声も聞こえる。また個人のペースで進めることができるので、時間外にも練習し、差をつけようとする生徒が増加するという嬉しい誤算もあった。朝補習や放課後の補習で「基本例文集」を練習している生徒は、授業でのパフォーマンスや定期試験の結果が高く、生徒も「これをやれば結果が出る」と実感を持って活動している。少しずつではあるが、補習に参加する人数も増えてきている。今後、本校を発展させるにあたっては、この補習を強化していきたいと考えている。

日本語を口頭で英語に直す練習はふだんの授業でも行っている。授業では制限時間内にできるところまで進めるタイムトライアル方式で行っているの、部活動などで補習に参加できず遅れがちな生徒もノルマがない分、抵抗なく取り組んでいる。制限時間を設けたことで生徒はゲーム感覚で取り組んでいる。どの学習もやらないような生徒でも「これだけは!」と取り組む様子も見られる。

授業の進め方

これまでに述べてきた内容に加え、筆者の授業の詳細を紹介する。

週3時間のコミュニケーション英語では、1時間目はVQを用いた文法指導を行い、2時間目からはELEMENTの本文に入り、Part 1を学習する。

予習として、本文をノートに写し、単語を調べた上で本文を日本語訳する課題を与えていたが、年度初めは予習を行ってくる生徒は少数だった。

文章を解釈する、または授業に臨む上で本文を日本語に訳してくることは、授業での理解力に大きく影響するのは言うまでもない。しかし学習意欲が高い生徒でさえも、調べた単語が本文でどのように使われているかわからず、予習をあきらめてしまう生徒も多かった。そこで

筆者は、本文や新出単語、生徒にとってなじみのない単語の訳を載せた印刷物を前もって配布し、予習をさせた。すると、予習を行ってくる生徒の割合が23%から84%にまで上昇した。本文を写して単語を調べる作業の時間が減ったことで、音読や復習に時間を割くことができるようになり、学習効率が格段に上がったようだ。

New words		do with A	Aをどうする
leukemia	名 白血病	Unkonw	
sadness	名 悲しみ	keep doing	do し続ける
fulfill	動 (夢を)叶える	look down at ~	～を見下ろす
Bopsy		come true	実現する
firefighter	名 消防士	take A's hand	Aの手をとる
Arizona	名 アリゾナ	smile back	微笑み返す
be filled with~	～でいっぱいだ	local	名 地元の、田舎の
no longer	もはや～ない	fire department	消防署

ELEMENTの本文を授業で扱うときは、まず新出単語や本文を、音声機器を用いて何度もリピートする。この過程でシャドーイング(CDと同じペースで、あとから追いかけるように音読する練習)まで行う。本文を見なくてもできるよう声がけをしている。次に、日本語訳やターゲット文法の説明を発問しながら丁寧に行う。その後、もう一度シャドーイングを何度か行うが、本文の内容を思い浮かべながら行うよう指示する。さらに時間があれば、日本語訳から元の英文を口頭で言う練習も行う。

① ①The twenty-six-year-old mother looked down at her son (who was dying of leukemia). ②Her heart was filled with sadness. ③Like any parent,/ she kept thinking (about her son's future). ④She wanted her son to grow up and fulfill all his dreams. ⑤Now that was no longer possible, but she still wanted her son's dreams to come true.

② ⑥She took her son's hand and asked, “Bopsy, did you ever think about what you want to be when you grow up? ⑦Did you ever dream about what you want to do with your life?”

③ “Mommy, I’ve (always) wanted to be a firefighter,” he replied.

④ His mother smiled back and said, “Let’s see if we can make your dream come true.”

⑤ ⑩Later that day, she went to the local fire department (in Phoenix, Arizona). ⑪She met Firefighter (Bob) (there).

3時間目では、ウォームアップに前時で学習した英文を見て、その日本語訳を口頭で答える活動をペアで行っている。そのあと、本文を見ないでシャドーイングを行い、最後に日本語訳から元の本文を口頭で答える活動で1レッスンを終える。

終わりに

今回、コミュニケーション英語の文法説明時にあえて英語表現の教科書であるVQを使用した。1つ目の理由は、教科書にリンクした文法書『VQ総合英語』があることだ。VQのTeacher's Manualも教員の文法説明が要らないほどわかりやすいものになっている。

2つ目の理由は、教科書で扱った例文が基本例文集にも収録されていて、これを用いて日本語を瞬時に英文に直すという練習を行えることである。基本例文は平易な英語で構成されていて、生徒は無理なく取り組むことができる。

近年、センター試験の長文の量は増加している。これを踏まえると、より速く正確な速読、より速い英文解釈が必要になる。これに向けたトレーニングを行うことによって、より速い英文解釈と、正確な英作文力の向上が期待できる。

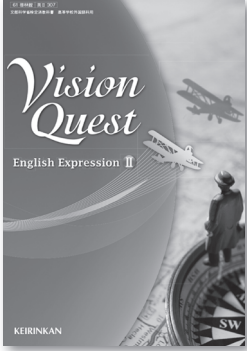
ただし、授業で行っているELEMENTの日本語訳から元の英文を言う練習は、家庭学習でも行えるという考えもある。授業では文法や本文の説明、シャドーイングさえ行ってしまうと、あとは生徒個人の活動とすることができる。こうした活動を家庭学習で行わせ、教科書の進度を上げることが今後の課題となってくるだろう。



大澤 直樹

NAOKI OSAWA

茨城県出身。2年の公立中学勤務を経て、現在、私立霞ヶ浦高等学校勤務。大学では英語教育を専攻。自己研磨のためTOIECも定期的に受験している。趣味は釣り、FXや株の取引。



Vision Quest を利用したディスカッション・ライティング指導実践例

関西学院高等部 枝川 豊

使用教科書: Vision Quest English Expression II

単位数: 2単位

使用機器: PC・プロジェクター等視聴覚機器

はじめに

まずお断りしておくが、関西学院高等部は関西学院大学の併設校で、1学年約300人中90%強の生徒が、推薦制度で関西学院大学に進学している。したがって授業は入試に縛られない形で展開しており、本稿がどのくらいの汎用性があるか気になるところではあるが、新しい指導要領の目指すところに近づくための一つの参考例としていただければ幸いである。

学校設定科目

「Practical English」について

本校の2年生は「コミュニケーション英語Ⅱ」2単位、「英語表現Ⅱ」2単位となっていて、他校に比べて少ないと思われる。さらに、2年生での英語表現は習熟度別に編成し、Vision Quest II (以下VQⅡ) を使用している。ただし、上記2科目以外に学校設定科目「Practical English」(以下P.E.: 2単位) を各学年に配当している。これはネイティブ教員とのティームティーチングで行う授業で、特に丁寧な説明が必要な際には日本語を交えるが、原則all Englishで行っている。Oral Communication (以下O.C.) の流れを汲みつつ、現在、試行錯誤を重ねながら、さらに4技能を統合したアウトプット重視の授業を模索しているところである。今回はVQⅡを用いたP.E.での取り組みを報告させていただく。

「Practical English」の授業展開パターン

先述の「英語表現Ⅱ」では、VQⅡのPart 1を取り扱っている。しかし、限られた2単位の授業では、なかなかまとまった英作文までには至らないという問題が予想された。また、これまでのO.C.では言語活動として何をするかを各学年で設定していて、2年生ではディスカッションを取り入れることにしていた。このディスカッションを継続し、さらに英作文まで行えるようにするために、2年生のP.E.を始めるにあたって、ネイティブ教員(Mr.

Stephen Swann)と協議し、授業の展開パターンを固定した。

まず、あるテーマを設定し、様々な素材(リスニング教材やインターネット上の教材を含む)を用いてインプットを行い、グループで簡単なディスカッションをして、メンバーの考えや、得た情報などをシェアし、最後にレポートさせた。新しいテーマを提示する際には、英語メディア教室でインターネットを通して情報を検索させたり、動画コンテンツ共有サイトYouTubeでテーマに関する内容を見たり、また、私とネイティブ教員とのsmall talkで導入することもある。

また、授業と並行して60 words程度のパラグラフを14個書くことを1, 2学期とも宿題として課した。そのパラグラフのトピックは、こちらが提供したものと、「英語表現Ⅱ」で学習しているVQⅡ Part 1のGOAL! から選ぶことを勧めた。VQⅡではGOAL! の作文例など、生徒にとって参考にできる材料が豊富にあるので、多くの生徒がGOAL! に挑戦した。また、1学期の最後には“How I advertise Japan”という共通タイトルで250 words程度のエッセイを提出させた。

VQⅡの実践使用例

2学期はパラグラフの構造に、よりフォーカスを当てるため、VQⅡのPart 2を効果的に用いながら授業を進めることにした。その一連の授業実践例を紹介する。

VQⅡ Part 2 : Lesson 4 「深刻な黄砂問題」

(取り扱うパラグラフはCause & Effectタイプ)

<1時間目>

1. パワーポイントで作成したスライド(Fig. 1)を提示し、どのような環境問題があるかを確認する。その際、知らない単語があれば、知っている生徒に答えさせる。(単語に限らず質問等に手を挙げて答えた生徒には participation pointsが与えられる。)ちなみに、Lesson 1「ロボットの有用性」ではYouTubeを利用した。

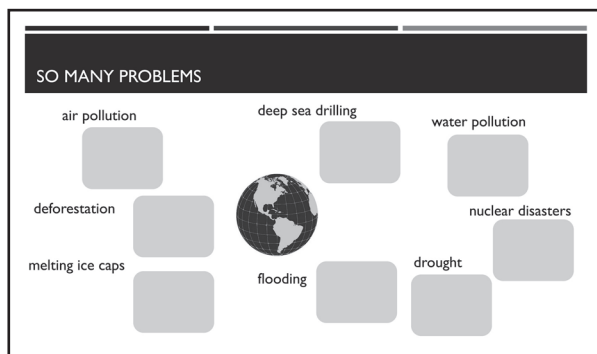


Fig. 1 (アミカケ部分にはイラストが入る)

2. “Which environment issue worries you the most?”
の問いに対するワークシートを用いた作業をさせる
ために、北京マラソンの様子をスライド(Fig.2)で提
示。教員2名で何がCauseで何がEffectかを互いに
質疑応答。生徒にも同様に問いかける。



Fig. 2 ©AP／アフロ

3. ワークシート(Fig.3)のそれぞれの項目(The problem that worries me / Causes / Effects / Why I am worried about it)に英語で記入。ただし、文である必要はない。どうしても英語で書けない場合は、この段階では日本語も可とする場合もある。

The problem that worries me:	
Causes:	
Effects:	
Why I am worried about it:	

Fig. 3

4. Discussion(記録項目 Fig 4):44～45名のクラス
なので5名を基本としたグループ分けをしていて、1

学期間は常にそのグループでグループワークをするこ
とにしている。ペアワークとともにグループワークも
頻繁に行うので、指示をすれば、すぐに机や椅子を
移動して、グループになる。各回のグループリーダー
がディスカッションをリードする。最終的には全員が
リーダー役を務める。ディスカッションにはPart 3
のLesson 2を有効に利用でき、ディスカッションごと
に互いに評価もさせている。(評価用紙 Fig.5)

Student	Problem and details	Ranking and reason
You	See front of worksheet.	
	Problem	
	Causes	
	Effects	
	Problem	
	Causes	
	Effects	
	Problem	

Fig. 4

Discussion 2		
Role	Check point	Bad ← → Good
Discussion leader	① Did you introduce the topic clearly?	1 • 2 • 3
	② Did you encourage all members to speak?	1 • 2 • 3
	③ Did you summarize all the ideas and keep to the point?	1 • 2 • 3
Discussion participant	① Did you express your ideas clearly?	1 • 2 • 3
	② Did you explain your ideas logically?	1 • 2 • 3
	③ Did you try to understand others' ideas and cooperate?	1 • 2 • 3
	④ Did you take a proactive part in the discussion?	1 • 2 • 3

Fig. 5

5. Reporting:グループでディスカッションした内容を
グループごとにまとめて必ず簡単にレポートすることに
している。“RANDOM.ORG” (<https://www.random.org/>)
というアプリを利用し、スクリーン上で無作為にグルー
プを選び、次に発表者を選んで全員の前で発表させ
る。どのレベルの生徒であっても、当てられたら必ずレ
ポートすることが求められる。その場で教員が発表の
評価を行い、評価に応じて、発表者と、その発表者が
属するグループにparticipation pointsが与えられ
るシステムにしている。そうすることにより、グルー
プでの共同作業がより活発になっている。

<宿題:VQ II p.77 Practice 1・2に取り組む>

<2時間目(Fig.5 & 6)>

1. VQ II で提示されている「つながりの言葉」を用いて
Cause & Effectの関係を表す文の作成や、主題文
(Topic Sentence), 支持文(Supporting Sentences)
などを確認する問題演習。

2. VQⅡ Lesson 4 p.76のパラグラフ(英文のみ)をスクリーン上に提示し、90秒程度で黙読させて、T/F Questionsでの質問。内容を確認したのち、Cause & Effectタイプのパラグラフ特有の表現や構成等を説明、確認。
3. 宿題の解答、および解説。特に論の展開、「つなぎの言葉」の使用には注意を払う。
4. 生徒によるパラグラフライティング。VQⅡのモデル文およびPracticeのパラグラフがとても良いモデルとなるので参考にさせる。
5. 書いたパラグラフをほかの生徒と交換し、Topic SentenceやSupporting Sentences、「つなぎの言葉」が適切であるかなどを互いに確認。

2014-15 Practical English II Term 2

Mr. Swann & Mr. Edgawa

Handout # 32

Practical English II

Paragraph Writing 4: Cause & Effect (Vision Quest English Expression II p.p.76-77)

REVIEW OF WORDS

1. Comparison & Contrast = (Japanese: と)
2. Cause & Effect = (Japanese: と)

<Exercise 1>

For each pair of sentences, put a "C" beside the one that is the cause and an "E" beside the one that is the effect. Then combine the two sentences, using the cause-and-effect vocabulary on p. 76 in Vision Quest.

1. _____ A. I studied all night last night.
_____ B. I'm very tired today.

2. _____ A. My neighbors play their radio too loud.
_____ B. I get angry at my neighbors.

3. _____ A. More and more people are buying computers.
_____ B. Prices for computers have gone down a lot.

4. _____ A. I am trying to save money.
_____ B. I plan to go to Australia after graduation.

<Exercise 2> Paragraph Analysis Questions

¹Finland is located between Sweden and Russia. ²Finland's location has had a great influence on the country's history. ³It was conquered (征服された) in the 12th century by the Swedish people. ⁴This resulted in a great cultural influence from Sweden. ⁵In fact, Swedish is still an official language of Finland. ⁶Swedish is related to the languages of Norway and Denmark. Moreover, in the 19th century, Finland was ruled (支配された) by Russia. ⁷The Finns regained control of their country after World War I. ⁸Finland and the Soviet Union went to war again in 1939, and the Finns had to give up some of their territory. ⁹Finland's location has certainly had a great effect on its history.

Expressions: have (has) an influence on ~ = ~に影響を及ぼす
result in ~ = ~という結果になる regain* = 元に戻る

Topic Sentence: _____ Supporting Sentences: _____

Concluding Sentence: _____ ; _____ type

Sentence does not belong to this paragraph: _____

Class _____ Number _____ Name _____

[illegible]

Optional Homework:

Write a cause-&-effect type of paragraph about your results of the 2nd Mid-Term exam in 80+ words.

e.g. cause: study harder ⇒ effect: higher scores

Fig. 6

以上がLesson4の実践例の報告であるが、どのレッスンは基本的にVQⅡのトピックを生かしながら同じようなパターンで授業を行った。

今後の予定とまとめ

3学期ではVQⅡのActivity for Communicationを用いて、数字と各種類のグラフ、およびグラフの説明をするための表現の習熟を図り、Part 3のLesson 1を活用しながら、グラフを用いたプレゼンテーションをする予定である。また、パラグラフからエッセイライティングに向けた授業も計画している。

初め、生徒たちは多くの英文を書くことに対しての抵抗感が大きかったが、指導を行ううちに徐々に小さくなり、生徒が自分自身でパラグラフの内容や構成を考え出していくことが定着してきたことは大きな収穫である。2学期はこちらの要求以上の語数や回数でパラグラフを書いてくる生徒も増えてきた。

これらの授業は、ICTに通じたネイティブ教員とのチームティーチングが可能な教室を使用していること、生徒が書いた英文のチェックをネイティブ教員が大きく担っていることなど、様々な環境が整っているからこそ行えている。ライティングのチェックは1人では難しいだろうが、日本人教員が1人であっても、工夫次第で同じような展開パターンでの授業は十分可能であると思われる。



枝川 豊
YUTAKA EDAGAWA

兵庫県西宮市出身。関西学院大学経済学部卒。公立校勤務ののち、1991年より関西学院高等部で勤務。オーストラリア、クイーンズランド大学で応用言語学を専攻。2004年から3年間SELHiの研究主任。現在、Super Global High Schoolの運営委員を務める。

